

地球と人類の未来のために

核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会

～県内各地から350名が核なき世界を求めて結集～



主催者を代表して挨拶する影山道幸連合福島会長

である。地球と人類の未来のために、平和を希求する声をさらに広げるため、これからも多くの団体と連携し粘り強く取り組んで行くことを確認したい。」と挨拶した。

引き続きNPO法人ピースデポの湯浅一郎代表にお越し頂き、「核兵器がある限り安全・安心は得られない 一核なき世界を北東アジアから一」と題して講演を頂いた。湯浅代表は核兵器の脅威、核兵器をめぐる世界の状況、核兵器のない世界の平和と安全、更には核兵器廃絶のために私たち市民、自治体がで



熱心に傾聴する参加者の皆さん

連合福島主催による「2013年核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」は、8月24日（土）二本松市にある安達文化ホールにおいて、県内各地の加盟組織から約350名が結集して開かれた。

冒頭、主催者を代表して影山道幸連合福島会長は「広島、長崎に原爆が投下されて68年が経過した。今もなお、被爆の後遺症によって多くの方が苦しみ、そして人類は未だに核兵器の恐怖に曝され、核兵器は世界平和の大きな脅威となっている。被ばく国日本が世界平和に果たす役割は

極めて重要

である。地球と人類の未来のために、平和を希求する声をさらに広げるため、これからも多くの団体と連携し粘り強く取り組んで行くことを確認したい。」と挨拶した。

引き続きNPO法人ピースデポの湯浅一郎代表にお越し頂き、「核兵器がある限り安全・安心は得られない 一核なき世界を北東アジアから一」と題して講演を頂いた。湯浅代表は核兵器の脅威、核兵器をめぐる世界の状況、核兵器のない世界の平和と安全、更には核兵器廃絶のために私たち市民、自治体ができることなどについてご講演を頂いたピースデポ湯浅一郎代表で強く訴えた。

最後に核兵器による悲惨な被害が二度と起こらないように、今後も継続して平和運動を取り組んで行くとした、「2013フクシマからの平和アピール宣言」を採択して、平和を求める福島県民集会は閉会となった。

